様式３

学校番号 64

令和５年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立　明善　高等学校（全日制課程）

自己評価

学　校　運　営　計　画　（４月）

学校運営方針	「克己・盡力・楽天」の校訓に基づく生徒育成を全ての指導の基本とし、少々の困難に負けることなく、心身ともに強い、かつ健全な生徒を育成する。併せて「確かな学力」、「豊かな人間性」を醸成するための良質な授業と主体的な学び、及び学校行事等を通じて、世界的な視野を備えた「志の高い」生徒を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
本校教育活動の根幹である授業の質の向上については、各自の研鑽及び授業デザイン研究を通じて改善に努めた。また、生徒の思考を深めるために「問い」の工夫をすることや「評価」について研究したことにより、一定の成果が見られた。今年度も授業と評価の一体化を目指し、さらに深化を図っていく。特に今年度から本格的に導入した「観点別評価」については、不断の検証を行っていく。 併せて、SSH経過措置1年目として、今までのノウハウを活用しながら課題研究を行ったが、運営指導委員の先生方からの評価も高く、今後もできる範囲で継続しながら、その質を高めていく必要があると考えている。 学校行事等については、「ウイズコロナ」を見据えてできうる限り実施したが、一定程度の成果があった。 今年度は、生徒たちの心身の成長に寄与すべく、より充実した取組みにする。	「基礎的・基本的な知識及び技能」を確実に習得させ、これらを活用し、課題を解決するために必要な「思考力」と「判断力」・「表現力」等を育成する。中でも特に「アウトプット」の能力(「表現力」)の育成を重視する。	○質の高い授業を行うとともに、効果的な考査問題の作成に努める。 ○「観点別評価」については、適切な評価の構築、指導と評価の一体化を目指し、不断の検証を行う。 ○「確かな学力」の育成と「深い学び」を実現するために、「アウトプット」の機会を数多く設け、思考を深めさせる。	
	「自己有用感」や「自己肯定感」を育み、「自己存在感」を感受させることを通じて、生徒自身の「自己指導能力」を育成する。	○生徒一人一人に「自分も一人の人間として大切にされている、必要とされている」と実感させる機会を敢えて設ける。 ○「ありのままの自分を受け入れる」ことのできる自己肯定感を身に付けさせ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断・決定できる能力を育成する。	
	学校への帰属意識を高めるとともに、自他を認め合う共感的人間関係や、相互扶助的な人間関係を構築する能力を育成する。	○「間違えることを恐れない、失敗を恐れない」学校文化を構築する。 ○自他を認め合うことのできる人間関係を構築させ、人権尊重の精神や「いじめ」を許さない精神を育成する。	
	「明朗な精神」と積極性、及び「奉仕の精神」の涵養を図るとともに、「健全な身体」を養わせる。	○何事にも明るく、積極的に取り組もうとする姿勢を評価し、支援する。 ○地域貢献活動やボランティア活動、その他の校外活動等への参加を推奨する。	
	探究活動を中心とした活動を通じて、日本の文化・伝統を理解させるとともに、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し、未来を切り拓こうとする態度の涵養を図る。	○各種探究活動の充実・ＳＳＨ事業の充実を図る。 ○キャリア教育の充実・学びの成果を活用した教育活動の実施により、「高い志」と「確かな価値観に立脚したグローバルリーダー（世界的な視野を持ったリーダー）」としての「資質」を育成する。 ○海外を含め校外研修の機会を確保し、生徒達の進路意識や学習意欲を高め、未来を切り拓こうとする態度を養わせる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
教務課	時間割管理・成績処理業務、入試業務等の円滑な運営を行う。	観点別評価における成績処理方法を簡素化し、作業負担を減らす。		
		非常勤講師への時間割変更の連絡方法を再度確認するなど、ミスのない時間割管理をする。		
	「総合的な探究の時間」をより一層充実させる。	ＳＴＬ探究で蓄積したことをもとに、２年次の総合的な探究の時間について体系的な指導となるよう計画し実施する。		
		１年次の総合的な探究の時間について、前年度の反省を生かし改善する。		
	表現力を育成する。	授業と定期考査において、生徒の表現力を高める活動や設問を設定する。		
		総合的な探究の時間において、考えや制作物を発表する場を充実させる。		
情報課	各ICT機器の管理を徹底し、授業や行事などの活用を促す。	ChromebookやiPadなどのICT機器をシステムを利用して、紛失等が無いように管理する。		
		職員研修の実施やICT支援員の活用により、積極的に授業や行事へのICT機器の活用を促す。		
	各システムの管理を行い、環境を整える。	各システムのアカウントやデータの管理を２人以上で適切に行う。		
		授業や校務でスムーズに使用できるように、２人以上で運用・改修を行う。		
	職員・生徒の情報モラル・セキュリティ意識を向上させる。	職員に対して学期ごとの研修を行い、情報モラル、セキュリティ意識の向上を図り、生徒への指導につなげる。		
		学年集会や専門家の講座を利用し、生徒の情報モラル、セキュリティ意識の向上を図る。		
庶務課	各種行事・式典については、早めに計画・立案し、円滑な運営を行う。また、関係分掌との連絡・調整を密にする。	来賓案内など各種準備に早めに取りかかり、関係各方面との連携を密にする。		
		より円滑な行事運営ができるよう、昨年度の実績をもとに、内容・実施方法等を検討する。		
	保護者会・同窓会と連携し、行事の円滑な運営に努める。	保護者会との連絡を密にし、保護者会理事会･評議員会と保護者会総会を円滑に実施する。		
		同窓会との連携を密にし、創立記念講演等を円滑に運営する。		
	新型コロナウイルス感染症による学校教育活動制限の緩和を踏まえて、各種行事・式典の運営・内容について検討する。	昨年度までの実績をもとに関係分掌と連携し、各行事が更に充実するよう内容・実施方法等を検討する。		
		行事について、必要なものとそうでないものを区別し、行事によっては縮小もしくは廃止する。		
広報課	学校案内、広報紙「楽天」、HP・LINEの運用・管理などを通して、本校の教育活動を中学校や地域社会に積極的に発信する。	学校案内、「楽天」（７月、３月）は早めの完成に努め、HP・LINEの適宜更新・整理を行う。		
		「別冊楽天」を５月と１０月に発行する。		
		行事写真を撮影し、記録・活用する。		
	中学生進路相談事業・体験入学は他の分掌と協力して最大限の効果を上げるとともに、生徒のプレゼン能力を高める機会とする。	中学生進路相談事業については、人選を６月に行い準備を始める。		
		体験入学については１学期から準備をして昨年同様２回実施し、生徒による模擬授業を行う。		
生徒指導課	学校生活における基礎・基本を徹底させるとともに豊かな人間性と社会性を身につけ、主体的に行動し、社会に貢献できる生徒を育成する。	学校生活全般を通して基本的な挨拶やTPOに応じた言動を身に付けさせる。		
		生徒会活動をさらに活性化させ、学校行事や校外活動の充実を図る。		
	社会規範を守らせるとともに、いじめ撲滅のための判断力や実践力を身に付けさせ、自他の生命を尊重する態度を養う。	外部講師による講演会を開催し、スマートフォンやＳＮＳの正しい使用を促す。		
		交通ルールを遵守させるとともに、日常生活におけるマナー教育を徹底する。		
	学校行事、生徒会活動、部活動を活性化させ、「克己・盡力・楽天」の精神を醸成し、「文武両道」を目指す心身ともに逞しい生徒を育成する。	学校行事や部活動等における様々な成功体験・失敗体験を経て、心身ともに困難に負けない逞しさを育成する。		
		部活動において、全国大会や九州大会を目指すことができる環境整備を行う。		
保健課	基本的な生活習慣を身につけさせ、元気で活力ある生活を送るための健全な心身を養う。	保健だよりを活用し、基本的な生活習慣に必要な情報を発信する。		
		健康診断等を円滑に行うとともに、午睡の充実を図り、心身の健康の保持増進を図る。		
	社会貢献や配慮の精神を養い、豊かな人間性を育む。	生徒会や部活動と連携を図り、校内外の美化活動の充実を図る。		
		ワンヘルスにつながる取り組みの充実を図る。		
	自己を大切にし、利他の心を育む教育活動の充実を図る。	個に応じた教育活動を充実させるために、専門機関と連携を図り教育相談委員会の充実を図る。		
		専門機関と連携を図り、自己や他者を大切にする気持ちや、自他を認め合う共感的な人間関係を築く力を育む。		
進路指導課	校内模試・校内実力テストや課外・土曜教室で「確かな学力」を育成し、生徒の進路目標の実現を果たす。	校内模試・校内実力テストの問題作成を通して、教員の教科指導力の向上を図る。		
		質の高い課外・土曜教室を行う。アウトプットの能力の育成を重視した教科指導を行う。		
		生徒のデータを進路指導に役立てるため、効果的な運用方法を検討し情報を共有する。		
	キャリア教育を充実させ「豊かな人間性」と「高い志」を育み、進路意識の高揚を図るとともに自己指導能力を育成させる。	大学セミナーや進路講演会等で進路意識の向上を図る。		
		めいせんワールド等の講演会で幅広い知見を得て、自らの進路を決断できる能力を育成する。		
		校内校外の専門的な研究等に積極的に参加する経験を通して、高い志を育成する。		
図書・研修課	生徒の実態を踏まえた「自己肯定感」を育む人権教育授業を充実させる。	年間指導計画に則り、３年間を見通した教育内容の精選および見直しを行う。		
		生徒の実態に即した教育内容となるよう、人権教育推進委員会・学年・図書研修課で十分に協議する。		
	「確かな学力」の育成と「深い学び」の実現を目指した職員課題研究を実施する。	「授業改善の工夫シート」を作成し、全職員で授業改善に取り組む。		
		相互授業参観期間に検証授業を実施し「授業検証シート」に成果をまとめる。		
	「豊かな人間性」と「志の高い」生徒の育成に資する読書活動を推進する。	図書委員を中心に、朝読書（年４回）・読書会・「図書週間」等を企画・運営する。		
		「図書館だより（年８回）」と「図書館報（年２回）」を発行する。		

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は Ａ：適切である Ｂ：概ね適切である Ｃ：やや適切である Ｄ：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

学校番号 64

令和５年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立　明善　高等学校（全日制課程）

自己評価

学　校　運　営　計　画　（４月）

学校運営方針	「克己・盡力・楽天」の校訓に基づく生徒育成を全ての指導の基本とし、少々の困難に負けることなく、心身ともに強い、かつ健全な生徒を育成する。併せて「確かな学力」、「豊かな人間性」を醸成するための良質な授業と主体的な学び、及び学校行事等を通じて、世界的な視野を備えた「志の高い」生徒を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
本校教育活動の根幹である授業の質の向上については、各自の研鑽及び授業デザイン研究を通じて改善に努めた。また、生徒の思考を深めるために「問い」の工夫をすることや「評価」について研究したことにより、一定の成果が見られた。今年度も授業と評価の一体化を目指し、さらに深化を図っていく。特に今年度から本格的に導入した「観点別評価」については、不断の検証を行っていく。 併せて、SSH経過措置1年目として、今までのノウハウを活用しながら課題研究を行ったが、運営指導委員の先生方からの評価も高く、今後もできる範囲で継続しながら、その質を高めていく必要があると考えている。 学校行事等については、「ウイズコロナ」を見据えてできうる限り実施したが、一定程度の成果があった。 今年度は、生徒たちの心身の成長に寄与すべく、より充実した取組みにする。	「基礎的・基本的な知識及び技能」を確実に習得させ、これらを活用し、課題を解決するために必要な「思考力」と「判断力」・「表現力」等を育成する。中でも特に「アウトプット」の能力(「表現力」)の育成を重視する。	○質の高い授業を行うとともに、効果的な考査問題の作成に努める。 ○「観点別評価」については、適切な評価の構築、指導と評価の一体化を目指し、不断の検証を行う。 ○「確かな学力」の育成と「深い学び」を実現するために、「アウトプット」の機会を数多く設け、思考を深めさせる。	
	「自己有用感」や「自己肯定感」を育み、「自己存在感」を感受させることを通じて、生徒自身の「自己指導能力」を育成する。	○生徒一人一人に「自分も一人の人間として大切にされている、必要とされている」と実感させる機会を敢えて設ける。 ○「ありのままの自分を受け入れる」ことのできる自己肯定感を身に付けさせ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断・決定できる能力を育成する。	
	学校への帰属意識を高めるとともに、自他を認め合う共感的人間関係や、相互扶助的な人間関係を構築する能力を育成する。	○「間違えることを恐れない、失敗を恐れない」学校文化を構築する。 ○自他を認め合うことのできる人間関係を構築させ、人権尊重の精神や「いじめ」を許さない精神を育成する。	
	「明朗な精神」と積極性、及び「奉仕の精神」の涵養を図るとともに、「健全な身体」を養わせる。	○何事にも明るく、積極的に取り組もうとする姿勢を評価し、支援する。 ○地域貢献活動やボランティア活動、その他の校外活動等への参加を推奨する。	
	探究活動を中心とした活動を通じて、日本の文化・伝統を理解させるとともに、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し、未来を切り拓こうとする態度の涵養を図る。	○各種探究活動の充実・ＳＳＨ事業の充実を図る。 ○キャリア教育の充実・学びの成果を活用した教育活動の実施により、「高い志」と「確かな価値観に立脚したグローバルリーダー（世界的な視野を持ったリーダー）」としての「資質」を育成する。 ○海外を含め校外研修の機会を確保し、生徒達の進路意識や学習意欲を高め、未来を切り拓こうとする態度を養わせる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
理数科	確かな学力を身につけさせるために、授業の充実を図り深い学びを実現する。	担任、副担任、教科担当者の間で密に情報交換を行い、個に応じたきめ細かい指導を実践する。				
		課題研究において主体的・協働的な活動を促し、試行錯誤に基づいた深い学びを実現する。				
	様々な進路に高い志を持って進むことができる生徒を育てるために、研修や理数科行事の充実を図る。	様々な分野で活動する卒業生との交流を企画し、大学進学後まで見据えた目標を立てさせる。				
		大学や研究機関を実際に訪問し、生徒が最先端の研究と触れ合う機会を確保する。				
	生徒が主体的に活動する場を生かし、質の高い情報発信に努める。	進路相談事業や体験入学を通し、生徒が直接中学生と交流し理数科の魅力を発信できる場面を作る。				
		広報課と連携し、パンフレットの質やHPの活用頻度を高めていく。				
総合文科コース	総合文科コースの諸行事を通して豊かな人間性を持ったグローバルリーダーの資質を育む。	海外研修を含めた総合文科コースの諸行事を充実させる。				
		行事を通して、郷土の歴史を知り、世界へ視野を広げ、将来への展望を持たせ、多様な価値観を理解させる。				
	高い志を持った生徒の育成と進路希望達成のため、行事や研修、授業を組織的に結びつける。	授業担当同士の連携を深め、授業の質を高めながら研修や行事の効果を上げる。				
		行事や研修の事前・事後指導を充実させる。				
	中学生体験入学を含め、総合文科コースの魅力を広報活動に反映させる。	広報誌の内容を精選し、総合文科コースの魅力を分かりやすく伝える工夫をする。				
		中学生体験入学において、生徒が主体的に動けるよう実施計画を吟味する。				
ＳＳＨ推進課	各事業内容を充実、活動の推進を通して、確かな学力や豊かな人間性を身に付けさせ、グローバルな視野を持った科学技術系人材の育成を目指す。	教務課とともに「総合的な探究の時間」（１年１単位、２年２単位）の更なる充実を図る。				
		教務課、図書研修課、学ばせ方改革委員会と連携し、深い学びにつながる授業改善の研究開発に取り組む。				
		探究活動の成果が主体性等評価に表れ、総合型選抜や学校推薦型選抜に対応できるように指導を行う。				
		理数科、科学系部活動の研究内容がより高度化するような支援体制を構築し、その成果を発信させる。				
	経過措置期間終了後の自走体制を構築する。	ＳＳＨ事業の中で来年度以降の学校行事に残すべきものを検討する。				
		経過措置後の活動にも繋がるように考慮しながら計画的に予算を執行する。				
第１学年	学年訓「共励」のもと、互いに尊重し合い、高め合うことができる雰囲気を醸成する。	生徒の自己有用感や自己肯定感を高めるとともに、互いに尊重できるよう指導を行う。				
		学校行事などを通して生徒に達成感を与え、新たなことに挑戦する意識を高める。				
	円滑な高校生活を送れるよう３年間の土台となる基本的な生活習慣を確立させる。	教員間の連携を高め、生徒の普段の様子を観察して、生徒が抱える課題の早期発見を目指す。				
		明るい雰囲気で学年運営を行い、日々の生活を通して学校への所属意識を高めるよう指導を行う。				
	「確かな学力」の育成のため、基礎・基本的な学力を定着させる。	予習・復習など基本的な学習習慣を定着させ、自ら学びに向かうことができる態度を養う。				
		教科間の連携を高め、授業の中でアウトプットの機会を十分に設定して表現力の伸長を図る。				
第２学年	規則正しい生活習慣の定着と高校生としての品位品格を持つ生徒を育成する。	学校生活を中心とする基本的生活習慣を確立させる。また、「掃除」活動を徹底させる。				
		規則を自ら守る態度を育成し、周囲に配慮した言動ができるように指導する。				
	受験を意識した学習習慣を確立し学力を向上させる。	家庭学習時間調査等を実施して、計画性とバランスを意識させ、家庭学習を促し、日々の学習の充実を図る。				
		HRの時間や講演会を活用し、進路学習を充実させる。				
	部活動や学校行事へ積極的な参加を促す。	部活動等に積極的・主体的に取り組ませ、心身を鍛えるために文武両道を目指すよう指導する。				
		各学校行事等においてリーダーの育成を図るとともに、個人でも積極的に自分の役割を果たすように指導する。				
第３学年	「豊かな人間性」と「志の高い」生徒を育成する。	基本的な生活習慣を基本とし、元気で活力のある学校生活を送らせる。				
		「凡事徹底」することで集団としての大きな力をつける。				
	自主性とリーダーシップを育成し、自己の在り方を考えさせる。	自らが考え行動し、周りへの配慮を心掛ける生徒を育成する。				
		リーダーシップをとることで新たな学びを経験し、人間形成の機会とする。				
	進路目標の実現に向けて意識を向上させ、意識改革を目指す。	進路実現に向けて自己の進路を見直し、今しなければならないことを理解し取り組む生徒を育成する。				
		時間を有効に活用するために、「時間の貯金」を意識させ、その時間を進路実現のために活用する。				
学校事務	経営参加型の事務室業務を推進する。	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。				
		各分掌と情報の共有化を図り、学校経営目標が実現するための事務処理を行う。				
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。				

学校関係者評価

評価（総合）	
	自己評価は Ａ：適切である Ｂ：概ね適切である Ｃ：やや適切である Ｄ：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見